「日韓市民 100 人未来対話」集会
―済州島・2017.11.9～11―

『むくげ通信』286 号（2018.1.28）より

飛田雄一

昨年（2017 年）11 月 9 日（木）から 11 日(土)、済州島西帰浦のフェニックスアイランドで開かれた「日韓市民 100 人未来対話」に参加した。テーマは、「共通の課題と機会―日韓協力と共同のとりくみ」。

ソプチコジ岬のホテルの前で、後ろの山は城山日出峰

2008 年サイクリングで訪ねたときはイビョンホン「オールイン」の映画セットがあった。今そこは、廃墟（？）となっている。

主催は、韓国国際交流財団、ソウル大学校日本研究所、東京大学韓国学研究センター。早稲田大学韓国学研究所、立命館大学コリアセンター、九州大学韓国研究センター、高麗大学校グローバル日本研究院、国民大学校日本学研究所、東西大学校日本研究センター、翰林大学校日本学研究所が「協力大学」となっている。

昨年は 4 回も韓国を訪問した。むくげ九里合宿（5/31～6/5）、日韓歴史研究者共同学術会議（群山、8/3～7、通信 284 号堀内レポート参照）日韓 URM 協議会（8/27～31、通信 284 号飛田レポート参照）、とこの日韓市民 100 人未来対話だ。実は、12 月初めにもう 1 回行く予定があった。友人がソウルで忘年会をしたいというので、知り合いの旅行会社とタイアップしてプランを組んだが、一番ソウル忘年会を望んでいた人に用事が入って流れた。さすがに 5 回も行けばやりすぎ、である。

今回の対話集会、日本側と韓国側から 50 名ずつが参加して開催された。主催者の開催意図は以下のとおりである。

「今回の行事は、日韓両国の専門家、学者のみならず、多様な分野に及ぶ NGO、一般市民が幅広く参加し、近年の東北アジアの情勢の変化に関する問題や、両国社会の共通の懸案に対する創意的な解決策を共に模索する意義深い場です。この行事を通して、未来志向的な日韓関係の発展のために堅固な基礎が築かれることを期待します。」

参加者は、学者 30%、一般市民 70%と事前に決められた。私は、NGO 枠での参加で後者であった。もちろん別にそれが不満な訳ではない。

●

日韓双方に私の知り合いが参加していたが、初めてここでお会いした方も多い。参加者すべてをここで紹介することはできないが、私のかってな主観で以下ご紹介する。

李鍾元（早稲田大学教授）、庵逧由香（立命館大学教授）、南基正（ソウル大学校日本研究所教授）、李桑鉉（インターネット新聞 光州 IN 編集長）、金恵京(KIM&CHANG 法律事務所室長)、崔善愛(ピアニスト)、青柳純一（Korea 文庫共同代表）、山田貴夫（川崎・富川市民交流会事務局長）、金朋央（コリア NGO センター東京事務局長）、勝村誠（立命館大学教授）、野平晋作(ピースボード共同代表)、外村大（東京大学教授）、木宮正史（東京大学教授）、長澤裕子（東京大学特任講師）、呉光現（聖公会生野センター総主事）、秋葉武（立命館大学教授）、岡田仁（富坂キリスト教センター総主事）、矢野秀喜（朝鮮人強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動事務局長）、浅野豊美(早稲田大学教授)、小田切督剛（川崎· 富川市民交流会事務局員）、大和裕美子（九州共立大学講師）、李明哲（在日コリアン青年連合事務局員）、深沢潮（小説家）、川瀬俊治（ジャーナリスト）、今村公亮（相島歴史の会事務局事務局長）、井上年弘（原水爆禁止日本国民会議）、古川雅基（在韓軍人軍属(GUNGUN)裁判の要求実現を支援する会）、斎藤正樹（ウトロを守る会）、武井一（都立日比谷高等学校時間講師）、福島みのり（常葉大学准教授）、有光健（戦後補償ネットワーク世話人代表）

●

この対話集会は韓国国際交流財団が主催者の一つ

となっているからか（？）ホテルは 3～4 名用の部屋に１名という具合で、私がこれまで参加した会議/集会のなかで一番豪華であった。

2 日目の 11/10 に開会式が開かれ主催者の挨拶ののち私には「祝辞」の担当となった。私も日韓市民交流の「生き字引」あるいは「生きた化石」になってきたのかも知れない。

日韓市民の交流が必要であることを、私の体験からお話しした。1978 年の日韓 URM 協議会を始めとして韓国のキリスト教団体、カトリック農民会などとの交流を進めてきたこと、1995 年の阪神淡路大震災のときも韓国の市民団体からの支援を受けたこと、韓国での「日帝強占下強制動員被害真相究明委員会」の発足をうけて日本で強制動員真相究明ネットワークができ相互に交流したことなどである。

●

参加者の崔善愛さんは崔昌華牧師の娘さんでピアニスト、開会式の文化公演でピアノ演奏をしてくれた。同日晩餐会の文化公演では旧知のソウル大日本研究所所長の韓榮惠さんがすてきな韓国舞踊を披露してくれた。びっくりした。

崔善愛さんのピアノ演奏、韓榮惠さんの韓国舞踊

セッションは、以下の 4 つであった。

1) 人的交流· 文化協力―文化、芸術、スポーツ、観光等
2) 科学技術協力―エネルギー、安全、環境、IT、第 4 次産業革命
3) 人口問題と社会福祉協力―低出産· 高齢化 、青年雇用、介護と医療
4) 草の根協力― NGO、自治体等

参加者はどれかひとつのセッションに参加するのだが、1）と 4)、2）と 3）が別の時間帯に開かれるという余裕のある会議だった。

私はセッション 4）に参加したが、別の時間帯に開かれた 2）3）ものぞかせてもらった。

公式行事ののちコンビニでお酒等を購入して某部屋で語り合うのはこの会議でもいっしょだった。それぞれに豪華な部屋だったので、問題なく夜の部がもたれた。最後に以下の行動計画が採択された。

●

1. 1998 年の「日韓共同宣言 21 世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」発表から 20 周年の 2018 年に「日韓市民パートナーシップ共同宣言」を採択することを目標に、共同の認識を育んでいく。
2. インターネット上に日韓の文化プラットフォームを構築し、日韓間の文化芸術・芸能人が情報を交換・共有し、多様なプログラムを企画、発信する場を提供する。
3. 日韓で共有しユネスコ世界記憶遺産である朝鮮通信使を保存・継承するために、日韓両国の市民団体が積んだ経験を参考に、ソウルから釜山、対馬、福岡を経て東京を結ぶ「日韓歴史文化ベルト」を創出する。
4. 社会の安全のために、デジタル情報、原子力安全、環境に関する情報、ビッグデータなど、両国市民が共有できる情報を公開、交換し、共有するよう積極的に推進する。
5. 市民の安全と平和のための認識を共有するため、医学・保健分野における技術を共有・協働するよう推進する。海外の感染症にも共同で対処して行く。
6. 昨今、急激に顕在化している気候災害の緩和および社会の低炭素化のための努力を東アジア共同体構築の一環として、日中韓協力の下に推進する。
7. 人口問題と社会福祉、青年の貧困および格差の問題などに対し、「成功・失敗事例集」を作成・共有し、福祉、障害者や高齢者など社会的弱者への配慮、生活の質の向上などの分野で日韓の市民が直接、交流する。
8. 未来の主役である子どもや青少年間の交流を政府間はもちろん、自治体レベルでも全面的に拡大する。
9. 地方自治体、NGO、教育機関などの交流に関する情報を共有し、コンソーシアムの構成などにより制度的なインフラを構築する。
10. 2018 年平昌(ピョンチャン)冬季オリンピック大会・冬季パラリンピック大会と 2020 年東京オリンピック大会・パラリンピック大会をひとつの連続した過程として結びつけ、その間の 2 年間を日韓市民の「平和フェスティバル」期間として活用する。

2017 年 11 月 11 日 日韓市民 100 人

（※詳細は、川瀬俊治「日韓の歴史和解、北東アジアの平和を市民の努力で―韓国・済州島で「日韓市民一〇〇人未来対話」開催」、月刊『部落解放』2018 年 1 月をご覧ください。）